

令和3年度(10月~12月) 日程表		Schedule																																						
2021 10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31									
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金				
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅰ—ありがとう、浦上敏朗さん。(~10/17)																	普通展示(浮世絵):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(10/19~11/23)																						
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅰ—ありがとう、浦上敏朗さん。(~10/17)																	普通展示(東洋陶磁):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(10/19~11/23)																						
	〈展示室3~6〉特別展示:海を渡った古伊万里~ウィーン、ロースドルフ城の悲劇~(~11/23)																																							
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力Ⅳ(~2022.3/6)																																							
	〈展示室8〉普通展示(工芸):山口県の伝統工芸Ⅰ(~12/12)																																							
	〈特選鑑賞室〉葛飾北斎 風流無くてなぐせ遠眼鏡(10/1~10/31)																																							
〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(~2022.3/27)																																								
● GT ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ■ ギャラリー・トーク																																								
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31									
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(~11/23)																	※1																						
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(~11/23)																	※2																						
	〈展示室3~6〉特別展示:海を渡った古伊万里~ウィーン、ロースドルフ城の悲劇~(~11/23)																																							
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力Ⅳ(~2022.3/6)																																							
	〈展示室8〉普通展示(工芸):山口県の伝統工芸Ⅰ(~12/12)																																							
	〈特選鑑賞室〉喜多川歌麿 難波屋おきた(11/1~11/30)																																							
〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(~2022.3/27)																																								
★ ★ ★ ★ ★ ● GT ■ 浮世絵																																								
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31									
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
	〈展示室1〉普通展示(浮世絵):忠臣蔵(~12/26)																																							
	〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 描画(~2022.4/10)																																							
	〈展示室3~6〉特別展示:海を渡った古伊万里~ウィーン、ロースドルフ城の悲劇~(~11/23)																																							
	〈展示室7〉普通展示(陶芸):オブジェ陶造形の潜勢力Ⅳ(~2022.3/6)																																							
	〈展示室8〉普通展示(工芸):山口県の伝統工芸Ⅰ(~12/12)																	普通展示(工芸):山口県の伝統工芸Ⅱ(12/14~2022.5/15)																						
	〈特選鑑賞室〉溪斎英泉 美艶仙女香 はつ雪や(12/1~12/26)																																							
〈茶室〉和田的「CONTRAST—光と陰—」(~2022.3/27)																																								
■ 休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ■ ギャラリー・トーク																																								

※1:〈展示室1〉普通展示(浮世絵):忠臣蔵(11/27~12/26) ■ 休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ■ ギャラリー・トーク
 ※2:〈展示室2〉普通展示(東洋陶磁):やきものの装飾 描画(11/27~2022.4/10)

★ イベント

開館25周年記念感謝ウィーク(10月9日[土]~10月17日[日])

①ミュージアム・ライトアップ
 実施日●10月9日[土]~10月17日[日] 18:00~21:00
 ※9日、10日のみ17:00~
 内容●テーマに合わせたカラーで建物外観をライトアップ

②月夜のナイトミュージアム
 日 時●10月9日[土]、10日[日] 9:00~19:00
 (入場は18:30まで)
 内容●特別展示と普通展示の開館延長(~19:00)と館内外のライトアップ
 ・Instagramキャンペーン(17:00~19:00) #萩美などをつけたInstagram投稿画面を受付で見せると、普通展示の入場無料、さらに美術館オリジナルグッズをプレゼント

③開館25周年アニバーサリーコンサート(入場無料)
 開催日●10月10日[日]
 出演●田中 雅弘(チェロ)、篠崎 友美(ヴァイオリン)、大和 加奈(ヴァイオリン)、末廣 紗弓(ヴァイオリン)、矢島 千愛(ヴァイオリン)、長谷部 一郎(チェロ)、浅野 宏樹(コントラバス)
 会場●1.当館講座室 2.有備館(萩・明倫学舎隣接)
 時間●1.開演10:30(開場10:00)
 2.開演14:00(開場13:30)
 定員●各30名(受付終了)
 内容●国内オーケストラトッププレイヤーによる弦楽の演奏。

④開館記念日
 日 時●10月14日[木]
 内容●(1)普通展示の観覧無料
 (2)これまでに開催した展覧会の図録を割引販売
 ※開催中の展覧会図録と一部商品は対象外

教育・文化週間
 日 時●11月1日[月]~11月7日[日]
 内容●(1)普通展示の観覧無料
 (2)「名品からの挑戦状! 浮世絵まちがいがし!」まちがいがしに参加、正解された方に美術館オリジナルグッズをプレゼント(なくなり次第終了)

萩美祭2021~開館25周年記念~
 日 時●12月4日[土]~1月10日[月・祝]
 内容●萩焼を使ったテーブルコーディネートを紹介

● ギャラリー・ツアー
 (担当学芸員による特別展示作品解説)
 「海を渡った古伊万里~ウィーン、ロースドルフ城の悲劇~」
 日 時●10月3日[日]、10月17日[日]、11月7日[日]、11月21日[日] 11:00~12:00
 定員●各日20名(要事前予約・要観覧券)

■ ギャラリー・トーク
 (担当学芸員による展示作品解説)
 いずれも11:00~(30分程度)
 10月9日[土] 開館25周年記念 館蔵名品選Ⅰ—ありがとう、浦上敏朗さん。(東洋陶磁)
 10月23日[土] 開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(浮世絵)
 11月13日[土] 開館25周年記念 館蔵名品選Ⅱ—ありがとう、浦上敏朗さん。(東洋陶磁)
 11月27日[土] 忠臣蔵
 12月11日[土] 山口県の伝統工芸Ⅰ
 12月25日[土] やきものの装飾 描画
 定員●各日10名(要事前予約・要観覧券)
 ※事前予約について TEL:0838-24-2400にて、①~④をお知らせください
 ①参加希望日 ②参加者の氏名 ③年齢
 ④代表者の日中の連絡先電話番号
 ※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です
 ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時の休館日やイベントを中止・変更する場合があります。詳しくは当館ホームページをご覧ください。
 お問い合わせ TEL:0838-24-2400
 URL: https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/

■ 交通アクセス

【新山口駅から】
 ●直行バス「スーパー」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
 ●防長バス(約95分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】(萩・石見空港から)
 ●萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】
 ●JR萩駅から萩循環まわーるバス(西回り)約30分
 ●JR東萩駅から萩循環まわーるバス(東回り)約30分
 ●JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】
 ●「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 ●「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



山口県立萩美術館・浦上記念館 Hagi Uragami Museum 〒758-0074 山口県萩市平安古町586-1 TEL0838-24-2400 FAX0838-24-2401 URL https://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/

季刊「萩」令和3年(2021)10月15日通巻第101号
 発行/山口県立萩美術館・浦上記念館 山口県萩市平安古町586-1

最新情報は公式SNSで

H A G I 萩

AUTUMN ISSUE 2021

101

題字は吉田松陰筆跡



(色絵唐獅子牡丹文亀甲透彫瓶(部分修復))
 有田窯 1700-1730年代 ロースドルフ城



HAGI URAGAMI MUSEUM

ウィーン・ロースドルフ城所蔵の陶磁器 陶片の語る陶磁の東西交流



図1

荒川正明 学習院大学教授

はじめに

ここ十数年来、私は出来る限り西洋各地の城館や宮殿を巡っている。その目的は、17～18世紀頃、いわゆるバロック期からロココ期の華やかな文化が開花した西洋の宮廷などにおいて、極東に位置する日本のやきものがなぜあのように熱狂的に迎えられたのか、それを自分の肌で感じてみたかったからである。

2018年3月、私はロースドルフ城を初めて訪れた。この城に散乱していた陶片群を直接目にした時の衝撃は、未だに忘れられない(図1)。床の一面に破片の散乱する光景を眺め、体に戦慄が走るのを覚えた。これまで数々の西洋の宮殿を見てきたものの、これほどまでの徹底的な破壊を受けた状況を目の当たりにすることはなかった。



図2

ロースドルフ城の悲劇

オーストリア・ウィーン近郊の森のなかの小さな城ロースドルフ城は、第二次世界大戦終了後、連合軍四か国統治の下、旧ソ連軍に接収され、軍の数か月の滞在の間、旧ソ連軍兵士による破壊と略奪の惨禍に遭遇したのだった。

現、当主のピアッティ氏の祖父にあたるフェルディナント伯爵(1899～1980)は、破片群を廃棄することなく、丁寧に拾い集め、城内にそれらの展示スペースをつくって一般公開した。というもこの多数の陶片には、ピアッティ家の並々ならぬ想いが込められているからである。約千年に及ぶロースドルフ城の歴史を振り返ると、度重なる戦禍のなか、破壊と略奪による受難の連続であった。15世紀前期のフス派戦争、17世紀の三十年戦争、そして第二次世界大戦の惨劇である。ピアッティ家は、この城を襲ってきたような悲劇が再び起こらないために、この破壊された陶片を未来への教訓として残してきたのであった。

ところで、これほどの破壊を受けた結果、本国オーストリアをはじめ、西洋各地の陶磁研究者はロースドルフ城の資料を放置したままで、この城には未だ調査のメスが入っていなかった。数百年続いてきた古城で出会った東西の陶磁器群を、我々日本人が主体となって精査できること、それはまさに千載一遇のチャンスだった。それは陶磁史研究者を標榜する私にとって、決して避けて通ることはできない道であった。

陶片が語る城の文化

この城で最も時代の遡るものは、中国磁器および日本磁器ともに17世紀後期頃である。おそらくこの頃、ピアッティ家が本格的に陶磁コレクションを開始させたのであろう。そして収集活動のピークは、17世紀後期～18世紀にあったと想定される。その頃はまだドレスデンに邸宅を構えていた頃であろうが、その居間の壁面を華やかに飾っていたと思われるのが、景德鎮窯の五彩磁器や日本の古伊万里金襴手である。

《色絵唐獅子牡丹文亀甲透彫瓶(一对)》(表紙)は1700～1730年代の肥前窯産で、全面を花卉文で埋め尽くした華麗な古伊万里金襴手である。器壁は内外二重の構成となり、外側の胴部中央の器壁には帯状に精巧な亀甲繫文様の透かし彫りを施し、獅子牡

丹文を配す。このような透かし彫りを有する古伊万里の伝世例は国内ではほとんど知られず、ドイツ・ドレスデンのアウグスト強王コレクションに類似品が認められるのである。

おわりに ～破壊から再生へ～

今回の調査では、陶片群の調査以外にも、とくに「陶片の修復」という課題も設けた。

破片を山のように城の床に並べて置いておくだけでは、一般の見学者に必要な以上に強いショックを抱かせる結果になってしまう。しかし、破片を少しでも多く修復し、往時の美しさがそこに漂うようになるならば、見学者は破壊前の城の華やかな「陶磁の間」をイメージすることもできるであろう。陶片が再び繋がり、宮殿の華麗な陶磁装飾が少しでも甦ることで、現代の人々が新たな希望を感じるようになるのではないかと考えた。

国内の陶磁器修復に関して最高峰の蘆山浩司さんに、このプロジェクトにご参加いただいたのは、本当に幸運であった。今回の最大の課題のひとつがマイセン窯の《白磁大壺》(図2)の調査および修復であった。この《白磁大壺》の元祖は、マイセン窯の成形部部長で原型師、さらには彫刻家のヨハン・ヨアキム・ケンドラー(1706-1775)が、1741年にザクセン王室から依頼され、フランス朝廷への贈り物として受注して制作したものである。20世紀初頭のリメイクであるこの壺は、東京の蘆山工房で数か月間をかけ、汚れを落とすクリーニングの作業を経て、細部の修復が行われた。

ここに悲惨な破壊を受けた陶片たちが、まさに再生というべき往時を彷彿とさせる姿に蘇ったのである。その姿をとくにご覧いただきたい。マイセン窯の白磁壺は見事に蘇り、再びその輝くような魅力を取り戻した。これこそ本プロジェクトに参加した全員の思いが結晶したものと言っても過言ではないだろう。この壺の輝きこそが、これからのロースドルフ城の再生の道を照らしてくれることを私たちは信じている。

図1.ウィーン・ロースドルフ城に残る陶片
図2.《白磁大壺(組み上げ修復)》マイセン窯 20世紀初頭 ロースドルフ城蔵

展示室1
浮世絵
ちゅうしんぐら
忠臣蔵

会期 2021年11月27日(土)→12月26日(日)

元禄15年(1703)12月14日未明、亡君浅野内匠頭長矩の怨みを晴らすため、赤穂浪士は吉良邸に討ち入りました。この赤穂事件は、文学や演劇に取り上げられますが、寛延元年(1748)に竹本座で初演された浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』(通称 忠臣蔵)は類を見ない大当たりとなりました。本作品以降、赤穂事件を描いた作品は忠臣蔵ものと呼ばれています。

浮世絵では、忠臣蔵の各場面を描いたシリーズのほか、役者絵や武者絵、見立絵などが描かれました。



葛飾北斎《仮名手本忠臣蔵 五段目》横大判錦絵、文化3年(1806)

展示室1
浮世絵
よしだひろし ふうけいはんが
吉田博の風景版画

会期 2022年1月2日(日)→1月30日(日)

明治から昭和にかけて活躍した吉田博(1876～1950)は、小山正太郎が率いる画塾不同舎で洋画の研鑽をつみ、結成から関わった太平洋画会で活躍し、官展では審査員もつとめた風景画家の大家です。幾度も外遊して国際的な評価も高く、また山岳画家としても知られています。

大正以降の後半生は、木版画家としても精力的に活躍しました。新版画運動を提唱する版元、渡邊庄三郎のもとで新版画を出版したことがきっかけとなり、3回目の外遊から帰国した大正14年(1925)からは、彫師と摺師を自ら監督する私家版を「自摺」と称して制作しました。

洋画家として研鑽をつみ、渡航経験も豊富な吉田の洗練された風景版画をお楽しみください。



《瀬戸内海集 光る海》
大正15年(1926)

展示室2
東洋磁器
やきものの装飾 びょうが
描画

会期 2021年11月27日(土)→2022年4月10日(日)

やきもの(陶磁器)には古今東西に多くのバリエーションが存在し、この多様性は、やきものに「装飾」を施すことによって生み出されている部分が少なからずあります。

やきものの装飾には、胎土を彫って形状を変化させる彫刻、釉に含まれる金属化合物の種類や割合から発色を変化させ彩色する色釉、顔料を用いて文様を描く描画などの方法があります。

今回紹介する描画は、やきものの表面をキャンパスに見立て、抽象や具象の文様を描く技術です。顔料の種類(色調)によって釉の下に描く釉下彩(青花、鉄絵など)、釉の上に描く釉上彩(五彩、金襴手など)があり、描画してから窯で焼き上げることで器に定着させ、剥落を防ぎます。モチーフも多種多様で、具象の場合は身近な草花や動物、伝説上

の仙人や龍などが描かれ、富貴や清廉を表す吉祥文としても好まれました。

本展を通じて、職人たちの緻密な技術を内包した描画のやきものを、お楽しみください。



五彩帆船羅針盤文盤 漳州窯 明時代・17世紀

展示室1
浮世絵
めいじ びじんが ようしゅうちかのぶ
明治の美人画 楊洲周延 I・II

会期 I 2022年2月1日(火)→3月6日(日)
II 2022年3月15日(火)→4月10日(日)

楊洲周延は、本名を橋本直義という越後高田藩士で、幕末の戊辰戦争の折は旧幕府軍として参戦しました。

慶応元年(1865)頃から豊原国周に入門し、画号を周延と名乗ります。明治期にはいと、浮世絵師として第一線で活躍し、特に美人画を得意としました。

天皇と皇后そして官女たちを群像に描いた「御所絵」では、新時代の風俗を華やかに伝えています。また江戸城大奥や江戸時代に流行した市民風俗など、江戸懐古的な作品も手がけました。

今回は楊洲周延の美人画を2回に分けてご紹介いたします。

楊洲周延《真美人 官女》
大判錦絵、明治31年(1898)



茶室 和田的 CONTRAST 一光と陰一

2021年4月3日(土)→2022年3月27日(日)